平成２３年度実施プラン

（１８事業）

歯科保健からの食育支援　～子供の食べる力の発達支援～	
西多摩保健医療圏	
実施年度	開始　平成２３年度、　終了（予定）　平成２４年度
背景	東京都歯科保健対策、西多摩保健医療圏地域保健医療推進プランで計画された歯科保健医療施策を充実し、口腔の健康を維持増進するためには乳幼児期からの歯科保健対策の重点的取組が必要である。 また、地域全体の健康課題である「食べる機能と口腔の発達」「食事のバランス」「健全な食習慣を身につける」「口腔疾患の予防」等に対応するためには、「子育て」「食育」支援に対する歯科保健からのアプローチを行うことが求められている。 これらの取組を進めるためには、住民に身近な市町村が核となり西多摩地域全体での口腔機能発達支援を中心とした歯科保健対策の充実を図る必要がある。しかし、管内の市町村は、歯科衛生士をはじめ栄養士、保健師等の専門職種の配置が不足しており口腔機能(食べる･話す口の力)発達支援に対応できる人材が不足している。 このため市町村母子保健担当者、保育園幼稚園職員の口腔機能発達支援能力のスキルアップを図るとともに、歯科専門職との連携を強化する必要がある。
目標	１　子育て支援に係わる関係者に子供の食べる機能の発達段階や障害因子に対する理解・知識や対応技能を習得させることにより、地域における子供の食べる力の発達支援に対応できる人材を育成する。 ２　住民に身近な市町村が核となり、地域における関係機関、子育て支援者が相互に連携し、乳幼児期からの口腔機能発達支援を含む総合的な歯科保健対策の充実を図ることができるよう、地域の子育て支援体制を充実させる。 ３　事例検討会で検討してきた事例をもとに現場で活用しやすい「事例集」を作成し、配付する。
事業内容	１　市町村、関係者を対象とした「口腔形態の発育と食べる機能の発達」に関する研修会（基礎編、中級編）を開催した。 ２　市町村母子事業や保育園幼稚園から出された「食べ方の気になる子供」の事例を選定し、問題点の抽出、対応方法等について口腔機能発達支援の専門家(歯科医師)を講師に招き、グループワーク形式で事例検討会を実施した。
評価	市町村、関係者を対象とした「口腔形態の発育と食べる機能の発達」に関する基礎知識について研修会（基礎編）を開催した。また、基礎知識の復習をしながら直面している事例に対応できるようなスキルアップを目指した研修会（中級編）も開催した。 事例検討会では、研修会での内容を活かしながら、市町村母子事業や保育園幼稚園から提出された「食べ方の気になる子供」の事例を、グループワーク形式で検討した。グループごとに問題点の抽出、対応方法等について発表を行い、口腔機能発達支援の専門家(歯科医師)から助言を得ながら子供の食べる力の発達支援力のスキルアップを図ることができた。(保育園 47.1%、認証保育所 23.1%幼稚園 3.3%市町村 50.0%の参加であった。) 「事後評価アンケート」（１年間を通じて参加した人に対し実施）では、受講前レベルを０とした自己評価の結果では、レベル３（まぁまぁ知っている。または、出来る）を示す結果となった。 24 年度は、検討した事例を事例集として作成し、事例集の活用法や食べる力の発達支援に関する知識･技術の普及啓発に向けて取組む予定である。
問い合わせ先	西多摩保健所　企画調整課　保健医療係 電　話　０４２８－２２－６１４１ ファクシミリ　０４２８－２３－３９８７ E-mail　S0000341@section.metro.tokyo.jp

歯科保健からの食育支援　　～子供の食べる力の発達支援～

【事業背景】

１．子供の歯科保健をめぐる現状

（１）　保育園幼稚園を対象に「食べ方の気になる子供」の状況調査(平成 22 年度)

圏域内幼稚園保育園(114 か所)に「食べ方の気になる子」についての調査（80 か所回答、率 70%）を実施した結果、「食べ方の気になる子がいる」と回答した施設が３７か所（４６．３%)あった。回答内容は、「よく噛まない」「吸い食べ(チュチュ食べ)」「食べ物を口に貯める」等が最も多く、「食具（スプーン・はし）の使用」、「食に対する興味」の順であった。また、障害児においても嚥下、偏食等の問題点が上げられた。

「吸い食べ」「食べ物を口に貯める」「よく噛まない」等の食べ方は、長時間口の中に食物が貯留しているため、唾液の分泌不足を起こし、口の自浄作用を損ない、う蝕になりやすい傾向がみられる。

（２）管内市町村への支援

保健所では市町村歯科保健担当者連絡会、８０２０推進研修会、栄養業務連絡会、食育研修会、食育推進連携会議等を通じて市町村職員への専門的支援や相互の連携強化を図っている。また、在宅栄養士、歯科衛生士を対象とした連絡会、研修会等を開催し人材育成を図っている。

２．課題

「食べる力の発達」「食事のバランス」「健全な食習慣を身につける」「口腔疾患の予防」等の健康課題に対応するためには、一般母子保健、地域保健栄養等と協働した「子育て」「食育」への支援として、西多摩地域全体で、食べる力の発達支援を中心とした歯科保健対策の充実を図る必要がある。しかし、管内の市町村は、歯科衛生士をはじめ栄養士、保健師等の専門職種の配置が不足しており口腔機能(食べる･話す口の力)発達支援に対応できる人材が不足している。

そのため、市町村母子保健担当者、保育園幼稚園職員、子供家庭支援センター等子育て支援関係者が口腔機能発達支援能力の向上、知識や対応技能を共有し、子育て支援力を強化する必要がある。

【事業内容】　【平成 23 年度】

対象：子育て支援関係者　８市町村母子保健担当者(常勤・非常勤)、幼稚園保育園職員等

講師：綾野理加歯科医師　昭和大学小児成育歯科学教室小児歯科専門医（２年間）

≪研修会　基礎編　６月１０日金曜日　あきる野ルピア　ルピアホール≫

＊参加者　　51 名

＊参加職種　保育士　看護師　栄養士　園長　歯科衛生士　調理員　保健師　幼稚園教諭

＊研修内容　「食べる力の発達支援の基礎知識を学ぶ」

・食べる力（摂食・嚥下機能）の基礎知識として、食べてから飲み込むまで、私たちは口の中に食物をどこにおいて食べ始めているかを講義と実際の食材を使って確認した。

・摂食・嚥下の流れでは、認知することの大切さ、食物を口の中に摂り込んで飲み込みやすい形に作り替えていること、舌で食物を口腔から咽頭へ運ぶ時の詳細な状況などを学んだ。

・小児の食べる機能に関わる指導をするためには、正常発達を知ることが評価に結びつき、何がつまずきの原因になっているのか、また子供を取り巻く環境や連携等を知ることの大切さを学んだ。

＊参加者の感想・「食べることの目的は？」の問に答えが見出せた。社会性、人を知る、楽しい時間、食事の楽しみ、感覚の楽しみ、母子保健事業の中で楽しく食べる子供が育つように活かせる自信がついた。

・口腔内の動きについて詳しく知ることができた。ただ歯でかむのではなく、舌の動き、頬、歯ぐきなどの動きも見て、発達段階を見るのだということが

わかって良かった。
・スプーンにのせて食べさせてあげる時は、子どもの口が閉じて飲み込み、次を与えていく大切さを学び、園に帰ってからも気をつけて介助していきたいと思った。

＊後日アンケート　*実際に園に戻って、やってみて気付いたこと*
・「丸のみ」している子に口の奥のほうに入れていた。手前に置くようすると丸のみしなくなった。
・触って→感じて→動く　という基本を学んだ。「触れる」をすると子供の反応があるのが分かった。

≪事例検討会　１回目　８月５日金曜日　あきる野ルピア　産業情報研修室≫

＊参加者　　31 名
＊参加職種　保育士　保健師　管理栄養士　栄養士　看護師　歯科衛生士
＊内容・前回の研修会の内容を復習しながら今回が始めての参加者にも理解できるようミニ講演を行った。
・事前に提出した「食べ方の気になるお子さんの事例」として「丸のみ」「貯める」「チュチュ食べ」など具体事例を参加者全員で検討した。事例提出者から状況の説明を行い、観察や支援のポイント等について話し合った。講師からは各事例の支援について正常発達と支援の必要な発達との違い等について講義もあり見守りの必要な食べ方や支援の必要な食べ方の共有ができた。
＊参加者の感想・実際の事例を通じて相談できたので良かった。
・保育の現場で食べることについてどのような問題になっているのか良くわかり参考になった。
・他園の事例が、身近な事例であり共通していることが、ディスカッションの中で良くわかった。
・もっと他園の意見が聞けると良かった。意見交換をするには人数が多かった。

≪事例検討会　２回目　１２月９日金曜日　福生市さくら会館　ホール≫

＊参加者　　36 名
＊参加職種　保育士　歯科衛生士　管理栄養士　栄養士　看護師　調理員　相談員
＊内容　・前回の参加者からのアンケートを基に小グループ検討会とした。
・これまでの復習として「食べる力の発達支援の基礎知識」について講義を行った。
・新たに提出された「食べ方の気になるお子さんの事例」についてグループごとに事例を検討、内容の報告を行った。
＊参加者の感想・グループ討議だったので、事例を基にいろいろな園や人の意見が聞くことができ良かった。
・自分の園と同じような問題点がたくさんあり参考になった。
・他の職種の話が聞けて良かった。
＊後日アンケート　*実際に園に戻って、やってみて気付いたこと*
・おにぎりを少し大きめの俵型にすることによって、口いっぱいに頬張ることが軽減されて噛み切ろうとするようになった。

≪研修会　中級編　２月３日金曜日　福生市さくら会館　ホール≫

＊参加者　　56 名
＊参加職種　保育士　看護師　管理栄養士　栄養士　保健師　歯科衛生士　相談員
＊内容　・今までの講義や事例検討会の内容を省みながら、基礎をふまえた食べる力の発達支援の知識を深め、良くない食事介助の相互実習を行った。
・次年度作成予定の事例集についての提案、意見交換を行った。
＊参加者の感想・実際に食べさせ合って気付くところがあった。
・「感じるところに感じるように与える。」という大事な事を実感した。
・　初めての参加でも分かることや現場で活かせる情報が得られて良かった。

【事業評価】

１．当日アンケートの実施
研修会、事例検討会参加者に対して、当日「アンケート用紙」を配布し当日回収し集計した。
全員が「大変参考になった」または「参考になった」と回答

２．後日アンケートの実施　（表１）
研修会、事例検討会参加者に対して、当日「後日アンケート用紙」を配布し、受講した内容を園等で実際行なった状況を、後日ファックスで回収し集計した。(4 回 12 件の回収)

３．事後評価アンケートの実施（表２）
1 年間を通じて参加した者に対して、「歯科からの食育研修事後評価アンケート」調査を郵送しファックスで回収し集計した。
対象：平成 23 年度参加者 119 名（実人数）
内容：受講される前の自身のレベルを 0 としたときの受講後に到達したと考えるレベルについて､当てはまるところに○を記すフェーススケールを利用し 9 項目について回答を得た。
結果：回収率６１．３％　問１から８までの回答は、レベル５を示す割合が最多を示し、問９に関しては、レベル７、レベル５、レベル９の順であった。
まとめ：アンケート結果から、確実にスキルアップできたと考えられ 23 年度開催の研修会、事例検討会に対する参加者の満足度は高かったと評価できる。

研修会　基礎編

事例検討会 1 回目

事例検討会　2 回目

研修会　中級編

【事業内容】　【平成 24 年度】

1　研修会及び事例検討会を開催しスキルアップを目指す。
2　「事例集」を作成及び配布する。
3　事例集を活用した研修会(実践編)を開催し、事例集の活用法や食べる力の発達支援に関する知識･技術の普及啓発を図る。

表１　後日アンケート

ＦＡＸ送信状 宛　先：西多摩保健所　保健医療係　宇田川	発信元：　青梅市　福生市　羽村市　あきる野市　瑞穂町　日の出町　檜原村　奥多摩町　他 氏　名：	5月17日分 締切：6月15日（金）

課題別地域保健医療推進プラン　歯科保健からの食育支援　～子供の食べる力の発達支援～　アンケート

1　役に立ちそうな情報・気づいたこと・学んだこと

「やってみよう！」と思ったことを記載してください

2　実際にやってみて気付いたこと

研修会後実際にやってみて気づいたことを記載してください

3　「事例集」作成にあたってのご意見やぜひ載せたい事例や項目掲載方法等

4　もっと詳しく知りたいこと・講師への質問

次回以降に反映させます

そのほか　感想・意見

5伝達講習しましたか？

① 報告と資料回覧
② 資料回覧
③ なし

6　伝達講習実施後の新たな相談事例

表２　研修会事後評価アンケート

あて先：東京都西多摩保健所企画調整課保健医療係歯科保健担当　宇田川

Ｆａｘ　０４２８（２３）３９８７

歯科からの食育支援研修事後評価アンケート

☆ 受講された研修会に○をつけてください。(今年度は研修会２回、事例検討会２回開催しました。)
第１回研修会　第１回事例検討会　第２回事例検討会　第２回研修会　計　　回受講

☆ 所属・職種についてお伺いします。
所属　・　保育園　・　幼稚園　・　市町村職員　・その他＿＿＿＿＿
職種(ご記入ください)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

受講される前のご自身のレベルを０としたときの受講後に到達したと考えるレベルについて、下記のスケールの当てはまるところに○をつけてください。

(>^<)　：　まったく自信なし
(>_–)　：　自信なし
(^_^)　：　まぁまぁできる（知っている）
(^_^)／　：　できる(知っている)
＼(^_^)／　：　自信がある

例）　子供の歯の生える順番を知っていますか？　まぁまぁできる(知っている)場合
(>^<)　(>_–)　(^_^)　(^_^)／　＼(^_^)／

1　子供の食べ方の観察チェックポイントがわかりますか？
(>^<)　(>_–)　(^_^)　(^_^)／　＼(^_^)／

2　子供の食べ方の発達段階を知っていますか？
(>^<)　(>_–)　(^_^)　(^_^)／　＼(^_^)／

3　子供の食べ方の評価ができますか？
(>^<)　(>_–)　(^_^)　(^_^)／　＼(^_^)／

次ぎのページに続く

4　職場内で子供の食べ方や支援方法等について説明ができますか？
(>^<)　(>_–)　(^_^)　(^_^)／　＼(^_^)／

5　子供に対して食べ方の指導・支援ができますか？
(>^<)　(>_–)　(^_^)　(^_^)／　＼(^_^)／

6　保護者に子供の食べ方の発達、問題等を説明できますか？
(>^<)　(>_–)　(^_^)　(^_^)／　＼(^_^)／

7　保護者と協働して子供の食べ方の発達支援(唇の閉じ方、調理形態の共有等)ができますか？
(>^<)　(>_–)　(^_^)　(^_^)／　＼(^_^)／

8　本研修を受講して子供の食べ方全般について総合的な到達点はどれくらいですか？
(>^<)　(>_–)　(^_^)　(^_^)／　＼(^_^)／

9　本研修に対する総合的な満足度はどれくらいですか？
(>^<)　(>_–)　(^_^)　(^_^)／　＼(^_^)／

ご意見、今後の研修への提言等、自由にご記入ください。

ありがとうございました。平成２４年度の研修もよろしくお願いいたします。

母子保健･子育て支援と連動する継続的な思春期相談の体制整備	
西多摩保健医療圏	
実施年度	開始　平成２３年度、　終了（予定）　平成２４年度
背景	当保健所には、不登校、ひきこもり、発達障害、摂食障害、家庭内暴力、自傷行為など多様で困難な問題を抱えた相談があるが、問題が複雑・長期化の傾向にある。 仮説として「問題の背景として、生きる力の基本となる、自己肯定感・他者への信頼感を育めない養育環境が影響している。」と考えた。その検証を行って支援課題を明らかにし、効果的な相談を行う体制整備が必要と考えた。
目標	１思春期相談の実態、問題の背景、支援課題を明らかにする。 ２地域関係者が総合的にアセスメントし、子供の発達課題に沿って相談、援助ができるよう対応力の向上を図る。 ３思春期に関わる関係機関が連携を強化するとともに、妊娠期からの切れ目のない支援を行うために母子保健･子育て支援関係機関のサポートネットワークづくりを行う。
事業内容	１保健師が関わった思春期相談の事例分析を行い、問題の背景・要因・支援課題について、検証する。 ２対応力向上に役立つ事例検討の研修会を実施するとともに事例検討の手引きを作成する。また、各市の関係者会議での事例検討に外部識者の助言者を同行する。 ３事例検討への支援を通じて、地域の関係機関との連携を深めるとともに、思春期問題についてのシンポジウム等を開催し、ネットワークの強化を図る。
評価	１実態把握・分析 当保健所が２２年度に継続的に関わった精神保健福祉相談の事例を集約し、２５歳以下の相談１３４事例の全体像を把握した。その中の１０事例について現在検証中であるが、養育環境の特徴やサポートネットワークの課題が抽出されてきている。 ２関係者の対応力の向上 地域関係者を対象に、対応力の向上を図るための事例検討の進め方に関する研修会を実施し、その内容をまとめた「『実践に役立つ事例検討会の進め方』手引き」を作成した。また助言者の同行による事例検討会への支援を２３年度は４市１町で７回実施した。未実施の自治体からも支援の要望が出されるなど、事例検討の必要性の認識が広がってきている。 ３サポートネットワークづくり 助言者同行も含め、事例検討の支援によって市町村関係機関、学校との連携を深めており、相互の事例支援に役立っている。 ２４年度については①１０事例分析の継続、②事例検討の普及・啓発、③関係機関の事例検討に助言者を同行、④シンポジウムの開催などを計画している。
問い合わせ先	西多摩保健所　保健対策課　地域保健係 電話　０４２８－２２－６１４１ ファクシミリ　０４２８－２３－３９８７ E-mail　S0200160@section.metro.tokyo.jp

母子保健･子育て支援と連動する継続的な思春期相談の体制整備
（中間報告）

背　景

保健所には、不登校、ひきこもり、発達障害、摂食障害、家庭内暴力、自傷行為など、多様で困難な問題を抱えた相談がある。

↓

仮説：問題の背景として、生きる力の基本となる、自己肯定感・他者への信頼感を育めない養育環境が影響していることが考えられる。

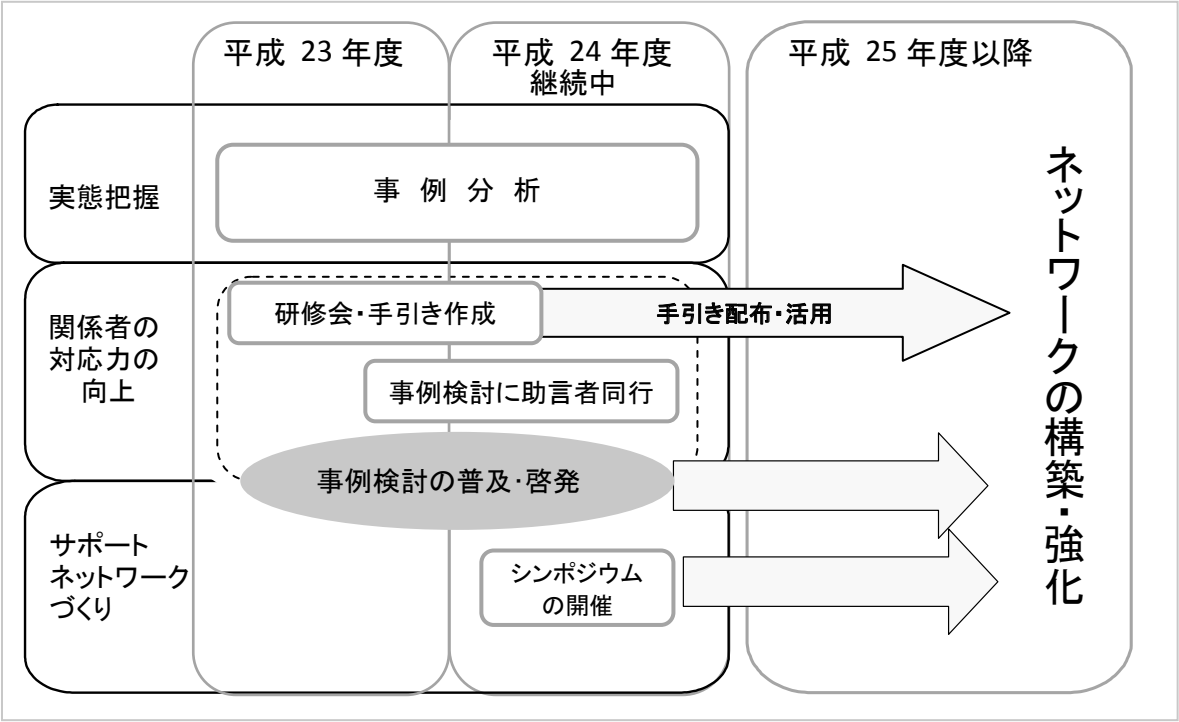
目　標

1　実態把握

2　関係者の対応力の向上

3　サポートネットワークづくり

事業内容



事 例 分 析（中間報告）

平成２２年度に保健師が継続的に関わった相談（５７９事例）のうち、２５歳以下の相談事例（１３４事例）について、問題の内容、相談経路、関係機関等の全体像を把握した。相談の主訴は不登校、ひきこもり、相談経路は市町村関係機関が多かった。学校からの相談事例は少ない傾向だった。この中から、地区担当が今回の事例分析の目的に沿って検討を必要としている１０事例を抽出して事例分析に取り組んでいる。

10事例の概要

	本　人　の　状　況	家　族　状　況
1	10 代・いじめ・不登校	母：　精神疾患
2	20 代・若年妊娠・ネグレクト	父母：　厳格・本人と交流なし
3	10 代・不登校・発達障害	父母・叔母：精神疾患
4	10 代・不登校・10 代半ばの彼女と同棲し父となる	母：　薬物・アルコール依存
5	20 代・施設退所後自宅にひきこもり	母：　精神疾患
6	10 代・腱まで届くリストカット	母：　精神疾患
7	10 代・発達障害・家庭内暴力	母：　精神疾患
8	10 代・自閉症・不登校・母と二人でひきこもり	母：　精神疾患疑い
9	10 代・発達障害・ひきこもり	父：　精神疾患
10	10 代・精神不安定・母より虐待・施設入所中	母：　精神疾患疑い

分析方法

①　１０事例について地域の課題を含め、外部識者を入れて事例検討を実施。

②　「子ども虐待対応の手引き（厚生労働省作成）」などの要支援家庭チェック表を使用し、重要な項目について確認。確認結果を集約して、事例のアセスメントのために重要な項目を検証中。

③　事例検討会の記録を KJ 法でまとめ、小項目、中項目、大項目にカテゴリー化して整理し、問題の要因、支援課題を検証中。

これまでの分析からの抽出内容

①　養育環境の特徴

・養育者に精神疾患などがあり養育が十分にできない。

・配偶者など他の家族が養育者を補完できず、家族全体としても養育力が弱い。

・支援を求める力が弱く、家族全体が孤立傾向にある。

②　サポートネットワークの課題

・養育困難に陥る要因がある家庭の早期の把握と支援。

・周産期からの医療機関、母子保健･子育て支援部門との連携。

・教育関係機関との連携と義務教育終了後の継続した支援。

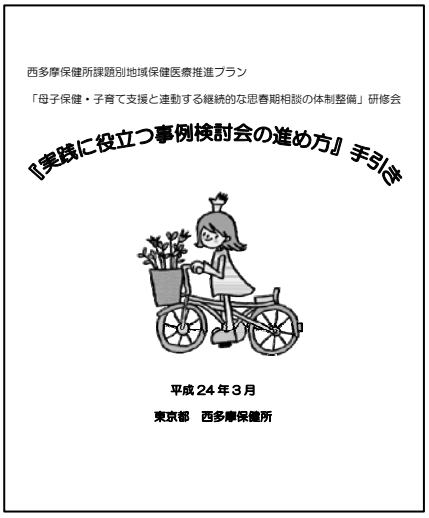
『実践に役立つ事例検討会の進め方』手引き　概要版

作成の目的

思春期問題等の相談業務に従事する援助者のスキルアップのために、事例検討会の進め方について研修会を実施し、その概要をまとめて事例検討の普及・啓発のツールとして活用する。

手引きの主な内容

- 事例検討会の必要性について
- 事例検討の具体的な方法
- 事例対象者の理解
- アセスメント（評価）の重要性
- 事例検討実施例



＜手引きの表紙＞

事例検討会の進め方

開会	司会から、事例検討の目的や流れ時間配分等について説明
↓	
事例の提示	事例提供者から事例の紹介・経過報告と検討事柄について報告
↓	
事例の共有化	事例を聞きイメージ出来るように質問・意見交換
↓	
論点の明確化	意見交換の中から、検討すべき課題を導き、整理
↓	
論点の検討	話し合いで出てきた課題について、全員でなぜ課題が抽出されたか、今後どう援助していったらいいかを具体的に方針を検討
↓	
まとめ	話し合ってきた内容をまとめ、方針を確認
↓	
閉会	